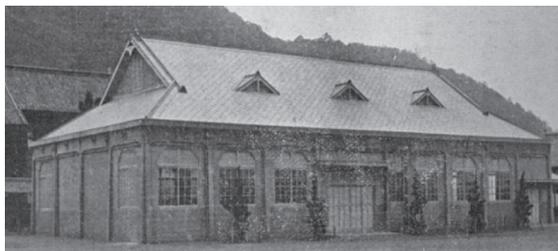


お隣の松山北高等学校にも木造の講堂が残っています。体育館として使われているようで、ほぼ当時の姿に近いものです。ただし、かなり改修はしています。ここのドーマー窓もつぶれています。竣工時には校長として第四代秋山好古が在任し、竣工式には演壇から生徒たちに「しっかり勉強すべき」と檄を飛ばしていたそうです。



私立北豫中学校（現：松山北高等学校 古写真）（松山市）

篤志家の役割が大きいというお話をしましたが、上浮穴農林高等学校知今堂もその1つです。昭和19年、戦時に造られました。船田一雄という方で三菱本社総領事を務められた方の寄贈で建築されました。昭和18年に第1期、第2期生たちが一生懸命足場造りをしたという貴重な写真記録も残っております。それ以外には県立三島中学校講堂も健在です。



上浮穴農林高等学校知今堂（現：上浮穴高等学校）（久万高原町）



知今堂建築 足場づくり（昭和18年）



新田中学校本館（松山市）

私立学校に目を向けますと新田中学校の本館が一部残っています。本来はもっと横に長かったのですが、両横を切って真ん中をうまく残しました。ここの車寄せの縦のラインがとてもきれいです。設計は後藤種一という愛媛県の方で、初代の愛媛県建築士会会長を務められたということです。そもそもの新田高校の創始者は新田仲太郎で新田長次郎の甥です。学園誌を聞いてみますと、当時の県知事が学校を開設してくれという要請をされたということです。

今回面白く拝見させていただいたのは、松山女学校（現、松山東雲中学・高等学校）の正門です。設計はJ・H・モーガンで、先ほども伊東先生から紹介がありました。昭和3年建築で、2階は実は住居部分となっております。和室のお部屋で畳が敷いてあります。かなり長い間、宿直室とか教員住宅に使っていたと言われていました。

J・H・モーガンは、横浜で活躍した建築家です。1926年に東北学院大学正門を造っています。これは洋風ですね。あまり変わらない時期ですが、和風のああいふ建物をどういう気持ちで造ったのかちょっと興味深いところがあります。



伊予市立翠小学校（伊予市）

最後は、伊予市立翠小学校。これも改修しました。改修の仕方がちょっと変わっていきまして、環境省のエコ改修事業に関連してのものです。こういうふうな以前の開放廊下は残して、校舎の後ろのほうにビオトープを造って環境教材に活用するというユニークな改修改築をしています。



元日本銀行松山支店（松山市）